

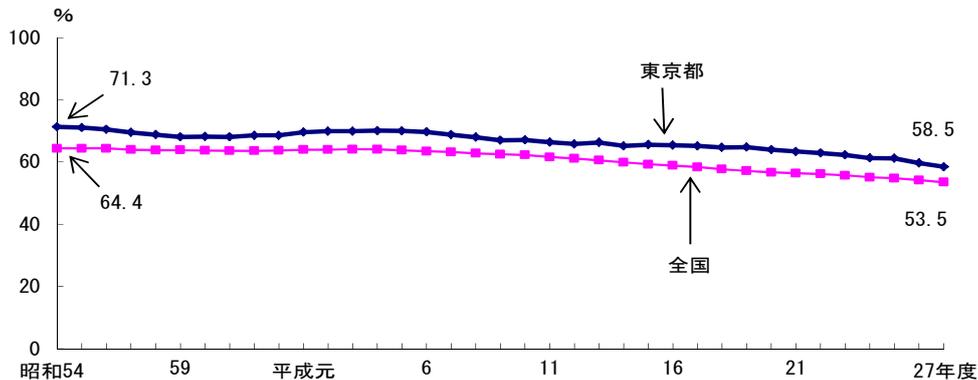
【東京都と全国との比較】

1 幼稚園

(1) 小学校第1学年児童数に対する幼稚園修了者数の割合

- ① 小学校第1学年児童数に対する幼稚園修了者数の割合について、昭和54年度からの推移をみると、東京都の割合は全国を上回っている。
- ② 平成27年度の東京都の割合は58.5%で、全国との差は5.0ポイントとなった。(図10、付表I 3-3)

図10 小学校第1学年児童数に対する幼稚園修了者数の割合の比較



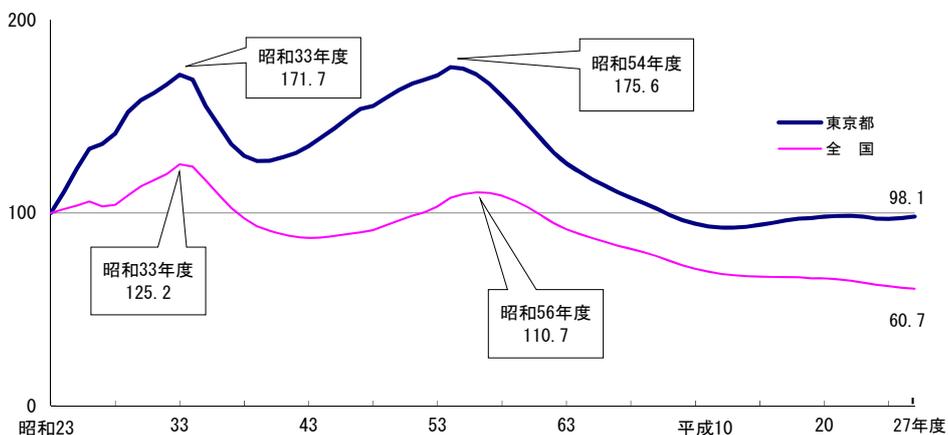
注) 幼稚園修了者数は各年3月修了者、小学校1学年児童数は各年5月1日在籍者

2 小学校

(1) 児童数

- ① 小学校児童数について昭和23年度を100とした指数でみると、第1次ベビーブームによる小学校児童数のピークは、東京都は全国と同じ昭和33年度で171.7となっており、全国の125.2を46.5ポイント上回っていた。
- ② ①と同様に、第2次ベビーブームによる小学校児童数のピークをみると、東京都は昭和54年度で全国より2年早く175.6となっており、第1次ベビーブームによる小学校児童数のピークと比べ3.9ポイント上回っていた。
- ③ 第2次ベビーブームによる小学校児童数のピーク以降をみると、全国は昭和57年度から低下が続いているが、東京都は上昇と低下を伴った動きとなり、平成27年度は前年度より0.7ポイント上昇して98.1となった。
- ④ 平成27年度の指数をみると、東京都と全国の差は37.4ポイントとなった。(図11、付表I 3-4)

図11 小学校児童数の比較 (昭和23年度 = 指数100)



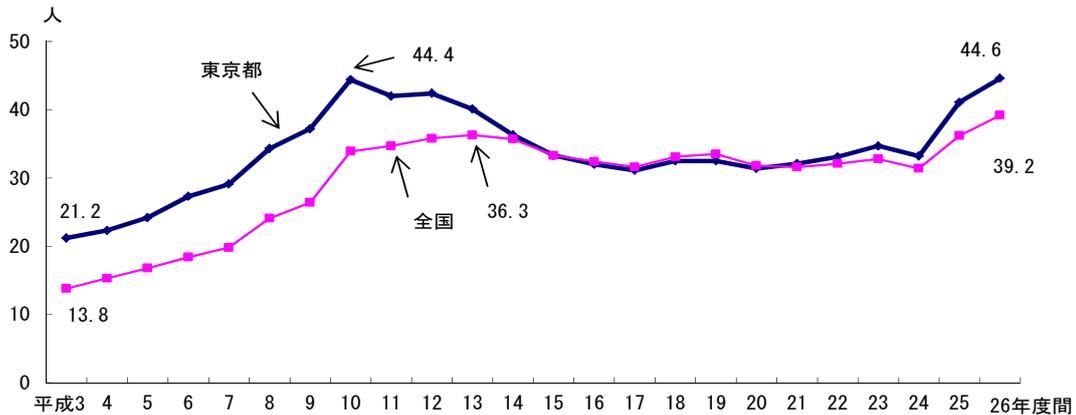
注) 昭和23年度の児童数を100として各年度の児童数を指数化している。

(2) 不登校者数

- ① 小学校児童1万人当たりの不登校者数をみると、東京都の平成26年度間は44.6人となっており、これまで最も多かった平成10年度間の44.4人を0.2人上回った。また、全国の平成26年度間は39.2人で、これまで最も多かった平成13年度間の36.3人を2.9人上回った。
- ② 小学校児童1万人当たりの不登校者数の推移について東京都と全国を比べると、平成14年度間から24年度間まではほぼ同じ傾向で推移していたが、25年度間から差が現れ始め、26年度間は東京都が全国を5.4人上回った。

(図12、付表I 3-5)

図12 小学校児童1万人当たりの不登校者数の比較



注1) 不登校者数は平成3年度間から年度間30日以上欠席した者で調査をしている。

2) 児童1万人当たりの不登校者数=(不登校者数÷当該年度間の5月1日現在の児童数)×10000

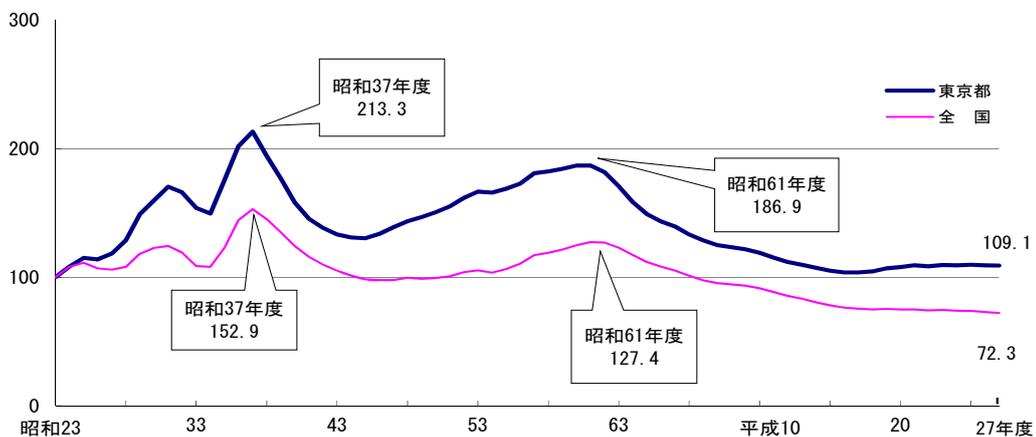
3 中学校

(1) 生徒数

- ① 中学校生徒数について昭和23年度を100とした指数でみると、第1次ベビーブームによる中学校生徒数のピークは、東京都は全国と同じ昭和37年度で213.3となっており、全国の152.9を60.4ポイント上回っていた。
- ② ①と同様に、第2次ベビーブームによる中学校生徒数のピークをみると、東京都は全国と同じ昭和61年度で186.9となっており、第1次ベビーブームによる中学校生徒数のピークと比べ26.4ポイント下回っていた。
- ③ 第2次ベビーブームによる中学校生徒数のピーク以降をみると、全国は昭和62年度から低下傾向が続いているが、東京都は平成16年度まで低下した後上昇と低下を伴った動きとなり、平成27年度は前年度より0.3ポイント低下して109.1となった。
- ④ 平成27年度の指数をみると、東京都と全国の差は36.8ポイントとなった。

(図13、付表I 3-4)

図13 中学校生徒数の比較 (昭和23年度 = 指数100)



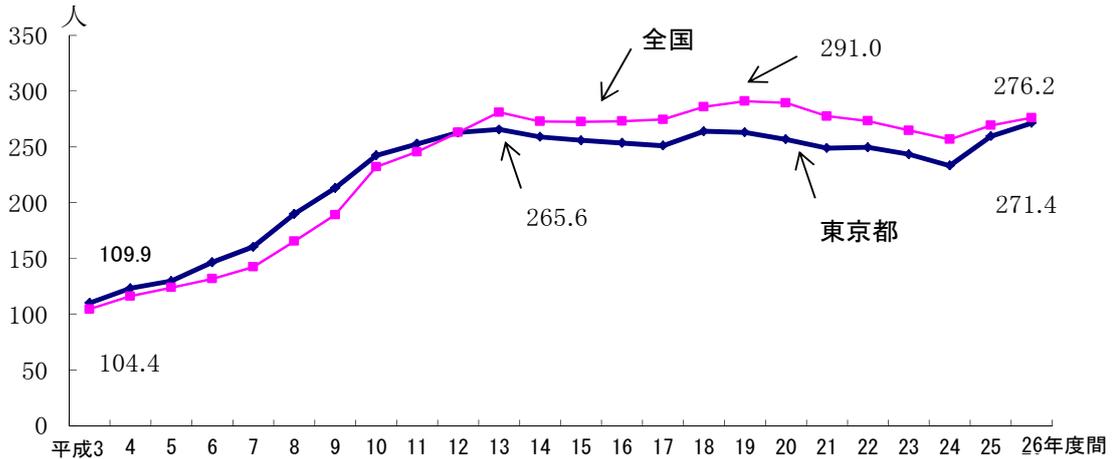
注) 昭和23年度の児童数を100として各年度の生徒数を指数化している。

(2) 不登校者数

- ① 中学校生徒1万人当たりの不登校者数をみると、東京都の平成26年度間は271.4人となっており、これまで最も多かった平成13年度間の265.6人を5.8人上回った。また、全国の平成26年度間は276.2人で、これまで最も多かった平成19年度間の291.0人を14.8人下回った。
- ② 中学校生徒1万人当たりの不登校者数の推移について東京都と全国を比べると、平成3年度間から11年度間までは東京都が全国を上回っていたが、12年度間以降は全国を下回っており、26年度間は東京都が全国を4.8人下回った。

(図14、付表I 3-5)

図14 中学校生徒1万人当たりの不登校者数の比較



注1) 不登校者数は平成3年度間から年度間30日以上欠席した者で調査をしている。

2) 生徒1万人当たりの不登校者数 = (不登校者数 ÷ 当該年度間の5月1日現在の生徒数) × 10000

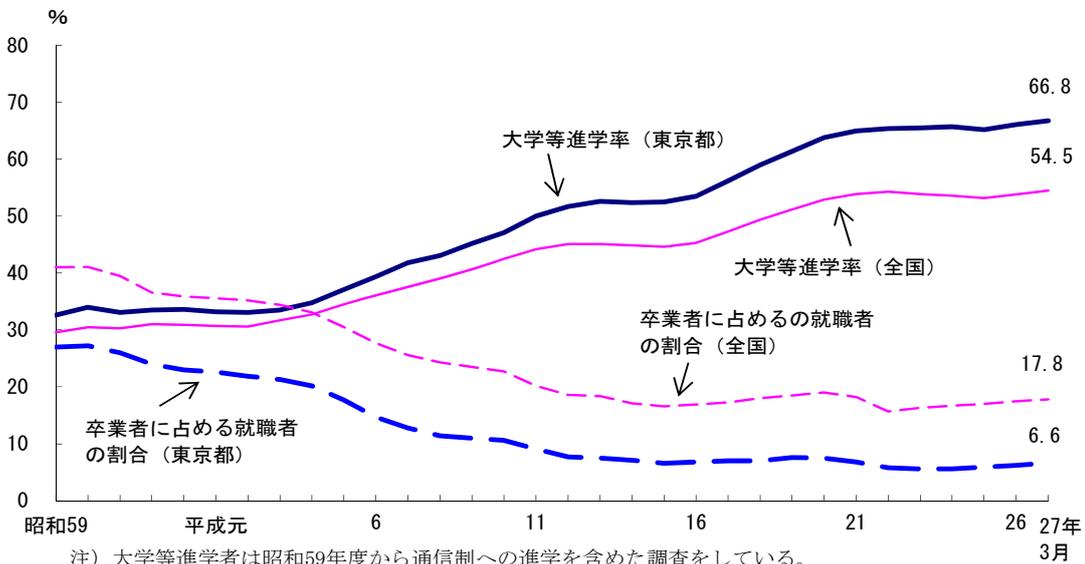
4 高等学校 (全日制・定時制)

(1) 進学率・卒業者に占める就職者の割合

- ① 東京都の大学等進学率は、全国を上回っており、平成27年度の大学等進学率は66.8%で全国を12.3ポイント上回った。
- ② 平成27年度の東京都の卒業者に占める就職者の割合は6.6%で、全国を11.2ポイント下回った。

(図15、付表I 3-2、3-8)

図15 高等学校卒業者の大学等進学率及び卒業者に占める就職者の割合の比較

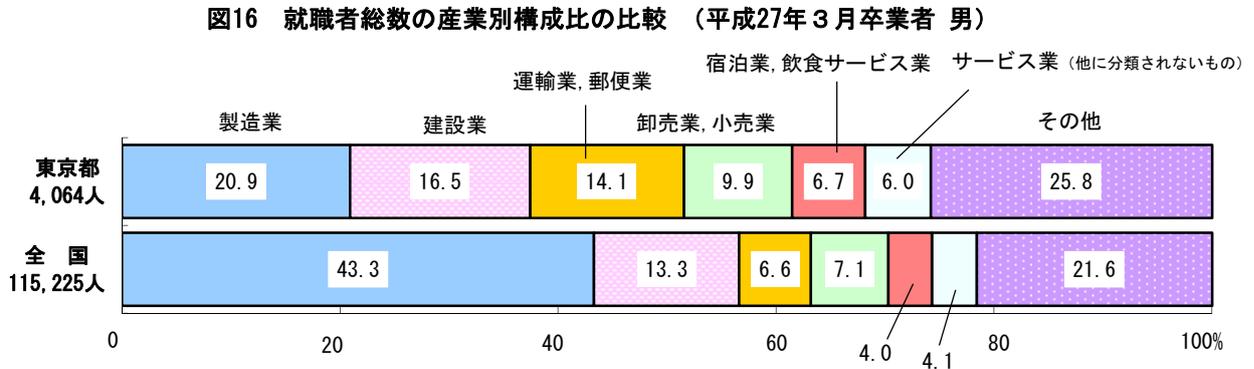


注) 大学等進学者は昭和59年度から通信制への進学を含めた調査をしている。

(2) 就職者総数[※]の産業別構成比

① 高等学校（全日制・定時制）卒業者について男子就職者総数の産業別構成比をみると、東京都では「製造業」が最も多く 20.9%であるが、全国の 43.3%を 22.4 ポイント下回っている。一方、「運輸業、郵便業」は 14.1%で、全国の 6.6%を 7.5 ポイント上回っている。

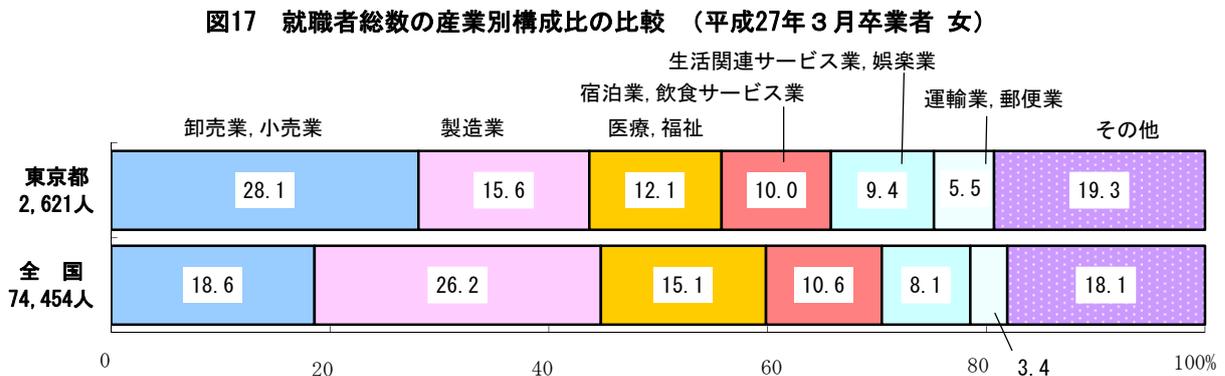
(図 16、付表 I 3-6)



注) その他：農業、林業、情報通信業、金融業、保険業、学術研究、専門・技術サービス業、公務(他に分類されるものを除く)等

② 女子就職者総数の産業別構成比をみると、東京都では「卸売業、小売業」が最も多く 28.1%で、全国の 18.6%を 9.5 ポイント上回っている。一方、「製造業」は 15.6%で、全国の 26.2%を 10.6 ポイント下回っている。

(図 17、付表 I 3-6)



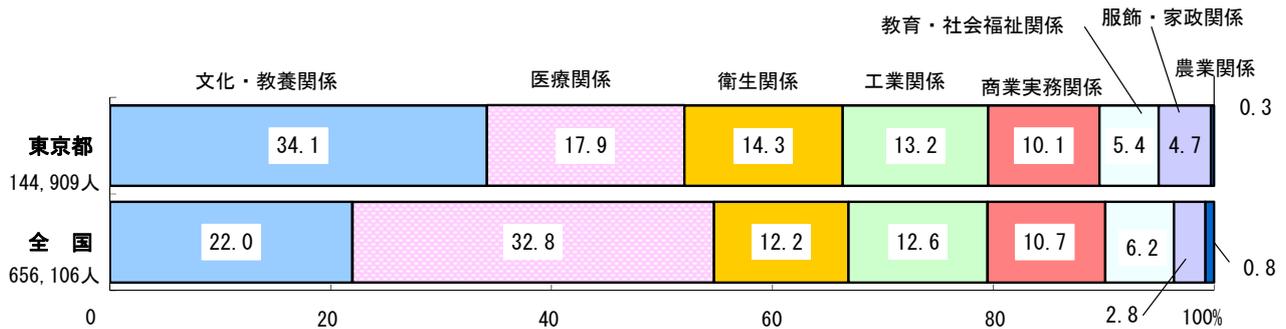
注) その他：農業、林業、情報通信業、金融業、保険業、学術研究、専門・技術サービス業、公務(他に分類されるものを除く)等

※ 就職者総数には、大学等進学者、専修学校（専門課程）進学者、専修学校（一般課程）等入学者、公共職業能力開発施設等入学者のうち就職している者を含む。

5 専修学校

- 平成27年度の東京都の専修学校生徒数は144,909人で、全国の生徒数656,106人の22.1%を占めている。
- 専修学校生徒数を分野別の構成比で見ると、東京都は「文化・教養関係」が34.1%で最も多く、全国の22.0%を12.1ポイント上回った。一方、「医療関係」は17.9%で、全国の32.8%を14.9ポイント下回った。
(図18、付表I 3-7)

図18 専修学校生徒数の分野別構成比の比較（平成27年度）



6 各種学校

- 平成27年度の東京都の各種学校生徒数は22,068人で、全国の生徒数117,727人の18.7%を占めている。
- 各種学校生徒数を分野別の構成比で見ると、東京都は「その他（外国人学校）」が51.3%、「文化・教養関係」が32.9%となっており、この2つの分野で全体の8割を超えている。全国は「その他（自動車操縦）」が26.6%で最も多く、「その他（外国人学校）」が23.3%、「その他（予備校）」が17.1%、「文化・教養関係」が13.4%の順となった。
(図19、付表I 3-7)

図19 各種学校生徒数の分野別構成比の比較（平成27年度）

